



風景の句読点

Punctuation of Scene 第19回

岩盤の穴から流れ出る滝

基礎地盤コンサルタンツ株式会社 / 技術本部 / 物理探査部
佐々木 勝 SASAKI Masaru (会誌編集専門委員)

びょうぶ岩の滝

好奇心を刺激する滝のある風景 (新潟県妙高市)

道路脇に現れる奇妙な滝

新潟県妙高市から長野県飯山市へ車で向かう道中、突然目の前に摩訶不思議な滝が現れた。むき出しの岩盤にぽっかりと空いた穴、そこから流れ出る滝。その不思議な光景に思わず車を止めて見入ってしまった。

さぞ名のある滝に違いない。そう思いすぐ脇にある公園の案内図を見ると、「滝」としか書かれていない。岩盤には「びょうぶ岩」という名があるらしい。

この滝が流れ出る岩盤の穴は人工のものなのか、天然のものなのか。こんなに立派な滝なのに名前がないのか。滝から流れ落ちる水のように次々と疑問があふれ出てくる。



「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたくなるような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。



岩盤に空いた穴



びょうぶ岩と滝 (右端)

滝の名は？

高田平野にある北陸新幹線の上越妙高駅から国道292号を南下し、妙高市猿橋付近で県道412号飯山新井線へ入る。平丸川に沿った細い県道を進み、徐々に急になる坂道を登っていくと、びょうぶ岩と滝が現れる。

平丸川は河川勾配が急で、小さな落差や斜面を流れ落ちる急流も随所で見られる。ノルウェーのフィヨルドでは滝が多すぎて一つ一つに名前を付けられないと聞く。名前が無いのはそのような理由なのかもと思ったが、平丸川には名前のある滝もある。もし人工の滝なのであれば、あえて名付けていないだけかもしれない。理由は分からないが名前がないと不便なので、本稿では妙高市の『妙高市歴史文化基本構想』に倣い「びょうぶ岩の滝」と呼ぶことにする。

分からないりの楽しみ方

びょうぶ岩の滝に関する情報はほとんど見つからなかったので勝手に妄想することにした。

千葉県の上総地方には「川廻し」という土木技術がある。蛇行する河川を短絡させ、残った河川跡地を水田などに利用するための河川工事である。君津市には「濃溝の滝・亀岩の洞窟」と呼ばれる滝がある。これは人工的に掘削された洞窟に川を通し、川廻しで生じた高低差を川が流れ落ちる人工の滝である。落差こそ異なるが、びょうぶ岩の滝はこの濃溝の滝によく似ている。

もしびょうぶ岩の滝が人工的に掘られたのであれば、何のために掘られたのだろうか。この場所にはびょうぶ岩と呼ばれる岩盤が行く手を遮るように立ち塞がっている。高田平野側から見ると、滝はびょうぶ岩の右側、南西側の端にあり、そのさらに右側を県道がびょうぶ岩を迂回するように通っている。この県道が平丸川の旧河道で、県道を通すために川廻しを行ったのではないだろうか。

これはあくまでも個人的な推測である。天然のトンネルかもしれない。真実を追求したい気持ちはあるが、分からないならそれでも良い。好奇心を刺激してくれる滝が目の前にあるのは紛れもない現実なのだから。



びょうぶ岩公園の案内図

<参考資料>

- 1) 「妙高市歴史文化基本構想」新潟県妙高市、2018年3月
- 2) 「亀岩の洞窟と滝」千葉県立中央博物館HP
<https://www.chiba-muse.or.jp/natural/special/yama/news/2019/20190829kameiwa.htm>

<写真> 全て筆者